



## 捕手・銀次の誕生

野球に対する高い目標を持って臨んだ高校進学。普代を離れ、盛岡中央高校・佐々木大介監督の下で新しい野球人生が始まった。

彼のこれまでの努力で開花した野球センスは、高校でも認められた。一塁までの塁間を4・1秒で走る脚力と左オーブンスタンスから繰り出す鋭い打球。そのバッティングを生かすため、1年生から4番・レフトのポジションに就き、2年生になるとサード兼キャッチャーで活躍した。

このころから、メンバー表の1番には「宇部銀次・捕手」の名前が書かれることになった。盛岡中央高校捕手・宇部銀次が誕生した。しかし、そんな彼にも後に

初めての壁が訪れることになった。

## 初めて経験した壁

先発でマスクをかぶった2年生の夏の大会は、県大会準決勝で専大北上高に2対3で敗退。このころから銀次君はスランプに陥った。

「どうしてもヒットが打てない。なぜだ」彼は悩んだ。野球人生で初めての壁に突き当たっていた。

佐々木監督は「あのときの打撃フォームは体が開いていました。その開きを押さえるために、逆方向を狙うこと、いろんな球種を打たせる練習を重ねました。その中で、自身で解決してくれる。そう信じていました」と振り返る。二人のきずなは次第に深まっていった。

夢 History 2 GINJI

# 野球への高い目標を持って 盛岡中央高へ進学



昨秋の東北大会では11打席連続安打を放ち、新聞や野球専門誌で注目され始めた

写真提供/畠山保男さん(緑区)